

# 児童が主体的にコミュニケーションを図る授業を目指して

## ～美郷町英語教育向上推進事業の実践～

美郷町立六郷小学校 教諭 沢屋 教史

### 1. はじめに

普段の授業の中で児童の様子を見ていると、外国語の学習に対して熱心に向かう児童が多いが、学習した英語表現を使って他者と会話をする場面になるとなかなか会話が続かず、苦戦する姿を目にすることがあった。これは、話したい内容が決まってもそれを伝える表現に自信をもてずに消極的になっていることが理由として挙げられた。そこで、単元を通して言語活動などの交流の機会を多く確保し、その度に全員で困り感を解決することで、英語に対する不安を取り除きながら主体的に外国語活動を学ぶ意欲を高めていけると考えた。令和2年度に美郷町英語教育向上推進事業において実践した手立てを以下紹介していく。

### 2. 実践紹介

#### (1) 本時案について

- ・期日 令和2年11月18日
- ・学級 美郷町立仙南小学校 4年2組
- ・単元 Let's Try! 2 Unit 7  
What do you want?  
～オリジナル美郷ピザを作ろう～
- ・指導者 沢屋 教史 (HRT)  
Melvin Alexcie Pattern (ALT)

※指導案はHP参照

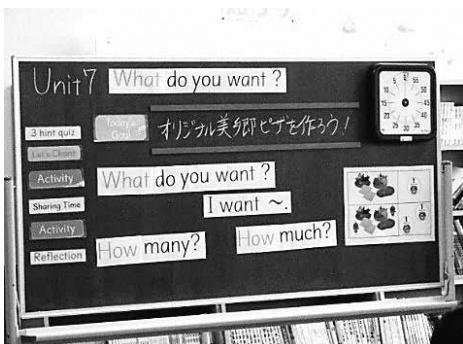


図1 授業後の板書①



図2 授業後の板書②

#### (2) 授業実践について

##### ①Final Goalの設定

単元の1時間目には、ALTの友人であるザック先生が将来的にピザ屋を開きたいと考えており、ザック先生に美郷町の食材を取り入れたオリジナル美郷ピザを紹介する、というゴールを児童と共に設定した。このように児童が「目的意識」や「必要感」をもつことは単元全体における児童の主体的な学びを支えるものとなり、よりよいコミュニケーション活動の実現につながったと感じる。

##### ②思考を促す「しあわせ」

やり取りをより自然に行えるように扱う食材の「色」「形」「大きさ」の異なる物を準備した。児童はロールプレイ時に必要な食材を得るために要望を伝えたり、売るために質問したりする活動が考えられ、そのためのやり取りが自然に行われる「しあわせ」となった。

また、食材を得るために所持金設定(10 senman coins)を行うことで、「よりオリジナリティを出そう」と思考するきっかけとなるようにした。食材には美郷町のものを織り交ぜ、価格設定に差を設けた。限られた所持金の中で組み合わせを精選しながらピザの材料を考えることで、児童はより主体的に学ぶ

ことができていた。

このようなロールプレイは5・6年生での学習にも生きてくる。本時の学習は、New Horizon Elementary 5のユニット6でのレストランの注文、New Horizon Elementary 6のユニット6での様々な食材における学習の基礎となる。児童にとって「あの時使った表現だ」と想起できるように、様々な学習の場面でスパイラルに表現に触れていく必要があると感じている。



図3 相手に配慮したやり取り



図4 「色」「形」「大きさ」の異なる食材

### ③中間評価（Sharing Time）の活用

店員と客に分かれての買い物ロールプレイをActivityとして設定し、欲しい物について、その数や値段を尋ねたり答えたりするやり取りを前半と後半に分けて行った。その間には中間評価（Sharing Time）を設定した。この時間では、活動でよかったですところだけでなく、言い方が分からなかったり、不安に感じたりした表現を取り上げ全体で解決することをねらいとした。中間評価後の活動では、さらに自信をもってやり取りを進める姿が見られ、効果的であったと考える。

#### ④やり取りの見取り

買い物場面ではALTと協力しながら児童のやり取りを見取り、評価していった。以下は、実際のやり取りの一例である。

A: Hello. What do you want?  
B: I want cheese.  
A: Do you like white cheese?  
B: No, I don't.  
A: Do you like yellow cheese?  
B: Yes, I do.  
A: How many?  
B: 1, please.  
A: Here you are.  
B: Thank you. How much?  
A: 1 sennnan coin.  
B: Here you are.  
A: Thank you.

上記で示した下線部分は本時におけるキー センテンスである。二重下線部分は、相手によって内容が変わり、これまで身に付けてきた表現内容から児童が適切に言葉を選び、尋ねる必要がある。例で示したやり取りでは、「色」について適切に尋ねたり、答えたりしながらやり取りが行われていた。

ピザシートに入手した食材を貼り終えた後、児童の作品をいくつか取り上げる場面があった。ある児童の作品を取り上げた際、以下のようないい発言があった。（T：教師 S：児童）

T: This is your pizza.  
What vegetables do you have?  
S: A tomatoes, two. Green pepper, one.  
Mushroom, one. Corn, one.  
T: You have two tomatoes, one green pepper, one mushroom, and one corn.

この場面での児童の発言は正確さに欠ける部分があるが、そのことを教師が指摘するのではなく、リキャストして正しい言い方を聞

かせた。やり取りの多くの場面でこのような正確さに欠けることはあるが、不完全な言い方であってもコミュニケーションは成り立つことが多い。加えて母語ではない言語でのやり取りのため、児童にとっては不安が大きいはずである。授業者として児童に正しい言葉を聞かせ、気付かせるような働きかけを心掛けた。

#### ⑤振り返りの充実

振り返りの時間には、自己の変容を実感できるような「振り返りの視点」を提示した。特に中間評価（Sharing Time）の設定は自己の変容を促すことにつながっており、終末の振り返りでその変容を児童自身が実感できるようにした。

本時ではロールプレイを取り入れていることから、やり取りにおける店員と客のそれぞれの立場で考えたこと、やり取りを通して学んだことを視点として提示した。やり取りで思考したことや友達のよさ、自身の改善点など、多くの児童が自己の変容を感じ取り、次時に向けて意欲を高めることができていた。



図5 「オリジナルレピザ」の完成

### 3. おわりに

今回の授業実践を通して、児童が楽しみながらコミュニケーション活動を行っている姿が見られたことは大きな成果であったといえる。買い物場面というロールプレイを通して、相手によってやり取りの内容が変わるのは、まさにリアルな対話であって、そのような場面では自分の思いや考えを何とかして伝える

ことが重要となる。これまで学んできたことをフルに活用しながらやり取りする姿が見られたため、今回の「きっかけ」は、児童の思考を促すのに十分な手立てとなったと考える。

今回の中間評価（Sharing Time）では、児童から疑問や困り感があまり出てこなかった。スムーズなやり取りができているとも判断できるが、さらにやり取りの深まりを促す余地があったとも考えられる。例えば「こんな時はどうする？」というような教師からの「搖さぶり」となる問い合わせができたのではないか。そのためにも活動場面でALTとの連携を図り、より丁寧な見取りをしていくことが重要になると考える。

国際教養大学の町田智久教授からご指導いただいた言葉の中に、楽しい授業を組み立てる上で意識したい3つのキーワードがある。それは、「Authenticity」、「Personalization」、そして「Creativity」である。「児童の身近な場面で、児童が自分に関連付けて課題を捉え、定型表現に加えて児童自身の選択に基づいた表現が使える活動を、4技能を含めて行う」ということだ。そのような授業作りを進めていくことで、より多くの児童が楽しみながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとしていけると考える。

私は、今年度（令和4年度）から美郷町の英語専科教員として、町内の三つの小学校で外国語活動・外国語の指導をしている。そのような立場にいることから、実践で得た課題を改善すると共に、成果を町内の全児童に還元することができると考える。より多くの児童が主体的にコミュニケーションを図る授業を目指して、これからもよりよい手立てや指導方法の研究を進めていきたい。

# 第4学年2組 外国語活動学習指導案

指導者 沢屋 教史 (HRT)

Melvin Alexcie Pattern (ALT)

1 単元名 Unit 7 「What do you want?」～オリジナル美郷ピザを作ろう～(Let's Try! 2)

## 2 児童と単元

### (1) 児童について

男子 10 名、女子 10 名、合計 20 名の学級である。

全体的に活発で、意欲的に学習する児童が多い。しかし一方で、理解できているのに発言をしなかったり、友達との交流時に進んで関わりをもたなかつたりと、自信をもてずに活動に消極的な様子の児童もみられる。

外国語活動に関しては、4月から前向きに取り組み、ゲームやインタビュー活動を通して楽しみながら英語表現に慣れ親しんできた。また、ALTとの学習を通して異文化を感じ、より正しい発音や英語に触れながら学習を進めることができている。これまでに児童は、自己紹介、遊びに誘う表現、一週間の予定や曜日、時刻を尋ねたり答えたりする表現、持っているかを尋ねる表現、アルファベットについて学習し、ペアやグループなどの様々な学習形態で交流活動を行いながら簡単な英語表現に慣れ親しんできている。

事前に行ったアンケートの結果は次のとおりである。（9月）

①外国語の授業は好きか。	とても好き 17(+3)	好き 2(-4)	少し嫌い 1(+1)	嫌い 0(±0)
②授業で英語を話せるか。	よくできる 3(+1)	できる 12(±0)	少しできない 5(-1)	できない 0(±0)
③ALTと話すことは好きか。	とても好き 11(-1)	好き 8(±0)	少し嫌い 1(+1)	嫌い 0(±0)
④英語の読み書きは得意か。	とても得意 6(±0)	得意 9(+3)	少し苦手 4(-3)	苦手 1(±0)
⑤進んで英語を話しているか。	よく話す 7(+1)	話す 8(-3)	あまり話さない 5(+2)	話さない 0(±0)
⑥英語は将来役に立つと思う。	とても役立つ 17(+2)	役立つ 3(-2)	あまり役立たない 0(±0)	役立たない 0(±0)

※単位（人） ※（ ）内は5月からの増減を示す。

このアンケート結果から見ると全体的に外国語の学習に対して好意的に向かう児童が多いが、学習した英語表現を使って他者と会話をする場面では苦手意識をもつ児童が少しいることが分かった。話したい内容が決まってそれを伝える表現に自信をもてずに消極的になっていることが考えられる。その反面、英語を学習することについては将来的に役に立つと考える児童や ALTと会話することを好む児童が多く見られる。交流の機会を多く確保することで英語が相手に伝わる喜びを感じ、より主体的に外国語活動を学ぶ意欲を高めていけると考える。

### (2) 単元について

本単元では、児童がこれまでに慣れ親しんできた語彙や表現を使って、児童同士で二往復以上のやり取りをするような活動を設定する。日常会話でそのようなやりとりが自然と行われる場面の一つとして買い物の場面があり、食材を扱ったやり取りが容易な題材である。これは児童にとっても身近な場面であり、より興味・関心をもって学習に臨むことができる。より実生活に近い場面設定の中で何往復かのやり取りを経験し、言葉で通じ合うことの楽しさを十分に感じさせたい。そのため、扱う言語材料は、**What do you want? I want ~, please.**だけでなく、**How many?**や**Do you like ~?**など、これまでに慣れ親しんだ表現を使う。さらに、**How much?**などの新しく必要な表現も扱う場面となる。このようなお金に関わる表現も何往復かの会話を実現する上では重要な表現である。商品のやり取りとしてより実生活に近い場面を作ることで、より自然なやりとりが期待できる。また、児童は食材を選びオリジナルのパフェや美郷ピザを作るが、食材を得るために所持金設定(10 sennan coins)を行うことで、限られた所持金の中でよりオリジナルティを出そうと思ふ思考するきっかけとなることが期待できる。

本時では、店員と客に分かれて買い物のロールプレイを設定し、欲しい物についてその数や値段を尋ねたり答えたりするやり取りを行う。前半と後半に分け、その間に中間評価（Sharing Time）を設定する。この時間は活動でよかったですだけでなく、言い方が分からなかったり、不安に感じたりした表現を取り上げ全体で解決する。このような全体での解決を受けて、後半の活動のやり取りがより深まった内容になると考える。

単元の最終ゴールとして、「オリジナル美郷ピザをザック先生に紹介すること」を設定する。ザック先生は将来的にピザ屋を開きたいと考えており、そのザック先生に美郷町の食材を取り入れたオリジナル美郷ピザを紹介することをゴールと設定する。そうすることで、児童にとって必要感をもって学習に向かうことができる。さらに、ALTとの「国際交流会」を企画し、その時間に自分のオリジナル美郷ピザを紹介したり、ALTの出身国の文化を説明してもらったりすることで、国際理解を深めていく。

### （3）研究主題との関連

#### ○疑問感・必要感をもたせる課題づくりの工夫

- ・単元の1時間目には、ALTの友人であるザック先生の話題を提示することで自然な流れで提案する。目的意識や必要感をもって取り組めるように、最終ゴールである「ザック先生にオリジナル美郷ピザを紹介すること」を児童と共に設定していく。また、学習の見通しがもてるよう、活動の前には指導者によるデモンストレーションを行う。
- ・それぞれの時間にねらいとする言語活動を設定するが、授業の導入としてALTとHRTとの簡単な会話やウォーミングアップを行う。Small Talkのような役割を期待し、既習内容の復習を行う時間とする。
- ・児童が外国に興味をもち、主体的に学習を進められるように、単に英語表現を学ぶだけでなく、自分の身近な題材と外国とを比較する機会を設ける。本単元では食材を扱うため、3年生時に総合的な学習の時間で学んだ「美郷町のよいところ」と絡め、地元の食材の豊かさや価値に気付かせながら英語でのやり取りや紹介をする。そうすることで児童が総合的な学習の時間との教科横断的な視点で外国語を考えるようにする。

#### ○深い学びを促進する教師の働きかけの工夫

- ・やり取りをより自然に行えるように扱う食材の「色」「形」「大きさ」の異なる物を準備する。児童はロールプレイ時に必要な食材を得るために要望を伝えたり、売るために質問したりする状態が考えられ、そのためのやり取りが自然に行われる仕掛けとなる。
- ・単元の中に適切な言語活動を取り入れるが、安心感をもって活動できるように、ペアで表現を確認してから全体で交流するように働きかける。また、活動の途中に、手本となる交流や表現をしている児童を価値付けたり、疑問点や困ったことを全体で共有し解決したりするための中間評価（Sharing Time）を設ける。考えをうまく英語で表現できない児童が、中間評価によって自信をもって交流することができると考える。
- ・食材に美郷町のものを織り交ぜ、価格設定に差を設ける。限られた所持金の中で組み合わせを精選しながらパフェやピザの材料を考えることでより主体的に学ぶことができるようとする。

#### ○今日の学びを実感させる工夫

- ・毎時間の終末で振り返りの時間を確保する。その際、自己の変容を実感できるような「振り返りの視点」を提示する。そして、その自己の変容を価値付けることでより次時の活動への意欲が高まるようにする。
- ・本単元のゴールではオリジナル美郷ピザの紹介があることから、他者に配慮する意識をもたせる。相手に自分の伝えたい内容が伝わっているのか相手の反応を読み取りながら交流することを意識させる。

### 3 単元の目標

○食材の言い方に慣れ親しみ、欲しい物について尋ねたり要求したりすることができる。

【知識及び技能】

○ザック先生に紹介するオリジナル美郷ピザを作るために、既習の言語材料を用いて、必要な食料などについて尋ねたり答えたりするとともに、自分のオリジナル美郷ピザを紹介し合う。

【思考力、判断力、表現力等】

○相手に伝わるように工夫しながら、自分のオリジナル美郷ピザを紹介しようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

#### 4 単元の構想（総時数5時間）

時間	ねらい	学習活動／表現・会話例	教師の主な支援	評価
1	・世界の市場には様々な食材があることに気付くとともに、身近な食材の英語での言い方を理解することができる。	・世界の市場の様子の動画を見たり、話題に挙がる野菜などについての話を聞いたりする。 <b>What do you want?</b> I want ~, please. How many? ~, please. Here you are. Thank you. You're welcome.	・日本の市場との比較ができるように、映像に出てきた食材についての質問をする。 ・単元のゴールを意識できるように、野菜や果物などを用いたモデルとなるピザを示す。	・世界の様々な食材に興味をもち、英語と日本語での言い方の違いや食文化の違いに気付き、野菜や果物などの英語での言い方を理解している。 【知】
2	・欲しい物を尋ねたり要求したりするための語句や表現を理解することができる。	・買い物場面でのやり取りを見て、会話の内容をつかむ。 <b>What do you want?</b> I want ~, please. How many? ~, please. How much? Here you are. Thank you. You're welcome.	・パフェの材料を集めるために、買い物のロールプレイの場を設定する。	・欲しい物を尋ねたり要求したりするための語句や表現を理解している。 【知】
3	・フルーツパフェについて紹介したり、欲しい物を尋ねたり答えたり要求したりして伝え合うことができる。	・パフェについてやり取りや紹介をする。 <b>What do you want?</b> I want ~, please. Do you like ~? Here you are. Thank you. You're welcome. This is my parfait. I have ~. I like ~. This is ○○.	・作ったパフェの果物について自信をもつてやり取りができるよう、中間評価を行い、上手にやり取りしているペアを価値付ける。	・フルーツパフェについて紹介について紹介する表現を理解している。 【知】 ・欲しい物を尋ねたり答えたり要求したりして伝え合っている。 【思】
4 (本時)	・オリジナル美郷ピザについて、欲しい食材を尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	・欲しい食材は何か尋ねたり、答えたりする。 <b>What do you want?</b> I want ~, please. How many? ~, please. How much? Here you are. Thank you. You're welcome.	・安心してやり取りができるように同じ店員や客同士で助言するように促すとともに、困った時はその内容を <b>Sharing Time</b> で発表するよう指示する。	・自分が欲しい食材について、場面や状況に合った言葉を用いながら尋ねたり答えたりして伝え合っている。 【思】
5	・相手に配慮しながら、自分のオリジナル美郷ピザについて紹介しようとする。	・グループで自分のオリジナル美郷ピザについて紹介し合い、感想を伝え合う。 <b>This is my pizza,</b> ○○. I have ~, ~, and ~. This is for ○○. 感想を伝える表現等	・贈る人のことやピザに込めた思いを表せるように、前時に作成したオリジナル美郷ピザに名前を付けるように言う。	・選んだ食材が相手に伝わるように自分のオリジナル美郷ピザを紹介している。 【態】

【知識・技能】：【知】

【思考・判断・表現】：【思】

【主体的に学習に取り組む態度】：【態】

## 5 本時の実際（本時4／5）

### (1) ねらい

オリジナル美郷ピザについて、欲しい食材を尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

【思考・判断・表現】

### (2) 展開

時間	学習活動	教師の支援		評価
		HRT	ALT	
2分	1 Greeting	・意欲が高まるように明るい雰囲気で挨拶をしたり、曜日や日にちを確かめたりする。	・意欲が高まるように児童と簡単な英語で会話をする。	
3分	2 3 hint quiz	・自信をもって英語を言えるように、児童の様子を観察し、必要に応じて ALT と発音チェックする時間を取る。	・英語に不安をもっている児童が安心して学習を進めていけるように楽しながら食材の復習をするクイズを設ける。	
2分	3 Chant(What do you want?)	・新鮮な気持ちで楽しく学習に向かえるように替え歌と一緒に歌う。	・学習の意欲が深まるように、テンポよく質問して替え歌を作る。	
3分	4 Today's Goal オリジナル美郷ピザを作ろう。	・学習の見通しがもてるよう、ゴールの姿を示すデモンストレーションをする。	・児童が重要な表現に気付くように、話すスピードやアクセントを強調しながら会話の手本を示す。	
10分	5 Activity 1 店員と客に分かれ、オリジナル美郷ピザを作る。（前半） ①vegetables & fruits ②meats & Misato 予想される児童のやり取り例  Shop assistant : Hello. What do you want? Customer: I want potatoes, please. S : How many potatoes? C : Two, please. How much? S: 2 sennan coins. C. :OK. S : Here you are. C: Thank you. S: You're welcome.	・ねらいに迫るために、重要な疑問文を確認し、掲示する。 ・スムーズに活動に入れるように座席の右と左で前半と後半に分けて行うことを伝える。 ・どの店を担当するかを決めるために、ランダムにカードを配る。 ・テンポよく活動できるように時間を設定して予告する。 ・安心してやり取りできるように同じ店員や客同士で助言するように促すとともに、困った時はその内容を Sharing Time で発表するよう指示する。 ・自信をもってやり取りできるように、発表や質問、助言等についてよさを見付けて称揚する。 ・活動に入り、主体的に質問しているか観察する。 ・よかった点を確認し、困ったことや疑問を解決するために Sharing Time を設定する。	・活動に入り、個別に発話を確認して支援する。 ・楽しい雰囲気でやり取りできるように、会話の前後の挨拶やリアクションについて助言する。 ・自信をもって活動できるように積極的に児童のよさを見付けて称揚する。 ・Sharing Time で確認するために、発音や気になる表現をチェックしておき、HRT に伝える。	
9分	6 Sharing Time 言いたくてもわからなかった部分やうまく伝えられた部分を交流し、語句や表現を共有する。	・よかった点を確認するためには、手本となる児童を紹介する。		
10分	7 Activity 2 店員と客に分かれ、オリジナル美郷ピザを作る。（後半）	自分が欲しい食材について、場面や状況に合った言葉を用いながら尋ねたり答えたりして伝え合っている。（行動観察・シート）		
5分	8 Reflection	・自分の学習の足跡を自覚させるために「それぞれの立場に合った対応ができたか」の振り返りの視点を提示する。 ・お互いの学習を確かめるために、数人に振り返った内容を発表する場を設ける。	・達成感を感じられるように、本時での頑張りを紹介し、称揚する。	
1分	9 Greeting	・明るい挨拶を交わし、和やかな雰囲気で終わる。		

